

地方創生推進交付金事業進捗評価調書(30年度実績)

| | |
|------|-------|
| 担当課名 | 政策推進課 |
|------|-------|

【事業の概要】

| | | | | | |
|-------|---|-------------------------------------|-----------------|--|------------------|
| 交付金事業 | 体験型「観光×定住」推進事業(移住) | | 計画期間 H28~H30 | 総事業費 | 15,877 (7,939) |
| | 事業目標 | 新しい人の流れをつくり、定住を促進する。(H31年度までに累計50人) | | | |
| 現状と課題 | <p>・これまで大分市を除く県内の市町村で唯一の人口増加の町であった日出町も、平成27年度の国勢調査では初の人口減に転じた。</p> <p>・大分、別府が通勤圏となる好立地や交通アクセスの良さ、豊富な湧水をはじめとした豊かな自然環境に恵まれながら、県外からの知名度が低い。人口減少が進展し、他自治体と人口増加を競うなか、これまで住環境や交通の利便性のみで、人口が増えていた日出町における移住推進施策は、今後改善やさらなる工夫が求められている。</p> <p>・観光客数は10年前と比較して10万人増加しているが、日帰り客数が76%を占めており、通過型の観光地としての印象が否めず、域内での消費額が伸び悩んでいる。</p> <p>・交流人口の増加策は観光・移住の両面から有効であり、まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げた目標達成のため、本交付金を活用して日出町版の地方創生に取り組む。</p> | | | | |
| 事業概要 | 目的 | 内容 | | <p>・滞在(体験)型観光プランの造成及びテストマーケティング</p> <p>・地域資源を活かしたプラン(または商品)を提供する人材及び組織の育成</p> <p>・移住者交流拠点の整備及び運営、移住・定住支援員の配置による移住者支援の充実</p> <p>・お試し移住施設の開設</p> <p>・観光協会の収益向上による町補助金の負担軽減</p> | |

【事業実施計画・実績】

(単位:千円)

| 事業実績及び年次計画 | | | |
|------------|---|--|---|
| 年度 | H28(実績) | H29(実績) | H30(実績) |
| 実施計画 | <ul style="list-style-type: none"> 深見記念館改修費 交流ひろばHiCaLi改修費 まちづくり大学ワークショップ費 | <ul style="list-style-type: none"> パンフレット、HP作成 まちづくり大学ワークショップ費 移住コンシェルジュ人件費 お試し移住施設及び移住者相談窓口運営 | <ul style="list-style-type: none"> お試し移住施設及び移住者相談窓口運営 移住コンシェルジュ人件費 オーダーメイドツアー開催費 |
| 事業費 | 4,075 | 6,544 | 5,258 |
| うち一般財源 | 2,037 | 3,272 | 2,629 |

平成30年度の事業概要

| |
|---|
| <p>・移住者相談窓口、移住体験施設の開設と運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 平成29年度に続き、交流ひろばHiCaLi内に移住相談窓口を設置し、「移住コンシェルジュ(非常勤職員)」を常駐させることにより、移住相談(空き家バンク登録物件の内覧等)に対応した。 ■ 川崎宗行に「ひじ暮らし体験住宅」を設置。年間通して運営し、18件の利用があった(うち1件が移住)。町での生活体験という形で体験型観光とともに町外者の滞在時間を設ける新たな取組となる。 <p>・移住希望者に対する起業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 県主催のオーダーメイドツアーを町内で実施。本町在住の移住者が経営するカフェ内で、起業のためのヨガセミナーを開催。東京在住の方が参加され、移住後のカフェ開設やヨガ教室開講のノウハウなどを習得していただくための事業を県と協働で実施した。 |
|---|

【その他の関連事業】

| |
|---|
| <p>事業目標のために関連するその他の事業</p> <p>・ひじはく(体験型滞在プラン)との連携 地域資源を活かしたプラン(または商品)を提供する人材及び組織の育成を進めており、多様な人材が参画した体験プランやワークショップなどを造成しテストマーケティングを実施している。今後は本プランの事業としての確立を図るとともに、移住希望者向けのプランを提供することで、自然や歴史、文化など、日出町に住みたくなる魅力を発見してもらうことで、お試し移住体験の充実を図る。</p> <p>・移住定住促進事業 都市圏で行われる移住フェア等に積極的に参加し、移住希望者への相談等により移住者の呼び込みを図っている。また、移住の際の住宅探しの一助となる「空き家バンク」の運営、県外からの移住者や辺地(南端全域・大神八代区)での住宅の確保に要する経費の補助により、移住に伴う住宅の確保の支援を行っている。</p> |
|---|

【目標指標】

| 指標(KPI) | 単位 | 基準値 | 年度 | | | |
|---------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | H28 | H29 | H30 | |
| 移住者数(県外転入者累計) | 人 | 19 | 目標値 | 50 | 125 | 220 |
| | | | 実績値 | 66 | 118 | 145 |
| | | | 目標値 | | | |
| | | | 実績値 | | | |

【事業の達成状況と今後の展開について】

| 評価 | 事業の達成状況 | |
|----|---------|--|
| ○ | H28 | 懸案事項であった、お試し居住施設の確保については、町所有空き家を活用し改修することができた。平成29年度より交流ひろばHiCaLiには移住支援員を配置し、土日祝にも対応できるよう体制を整えた。きめ細かなフォローにより移住を促進していく体制整備ができた。 |
| △ | H29 | 移住相談窓口、お試し居住施設の開設により、移住者対応の体制はある程度整備したが、その効果を発揮するだけの知名度・インフォメーションに不足する。交付金外の事業(空き家バンクや移住フェア等)を充実させるとともに、町の情報発信を強化することで、移住者増加施策の推進を図りたい。 |
| △ | H30 | お試し居住の体験者で、移住につながったのは1件であり、関係人口の創出にはある程度効果があったが、交付金外の事業(空き家バンクや移住フェア等)、移住インセンティブとしての補助金交付など、本町への移住誘因となるきめ細かな情報提供を行うことで、移住者増加施策の推進を図る必要がある。 |

※評価:◎計画を上回る ○計画どおり △やや下回る ×不十分

【今後の方針・課題】

| |
|--|
| <p>・ひじ暮らし体験住宅については、県外移住フェアや町HP等で事業について周知を図り、利用者数を増やすだけでなく、移住(転入)という結果に結びつけることが目的であるため、移住相談後のきめ細かなフォローと合わせ、日出町の魅力を知ってもらうことで移住を推進したい。</p> <p>・都市圏での移住フェアでの相談者で日出町の情報を事前に持っている方は少なく、本町の知名度の低さ(情報の少なさ)は否めない。移住者向けに限らず、町の知名度を向上させるためのタウンプロモーション戦略を検討する必要がある。</p> <p>・本町の特徴である豊かな自然や交通アクセスの良さ、観光資源や地場産品の魅力などを町内外に周知し、当初目標とした「賑わいと活力」、「新しいひとの流れ」をどのようにして創りだし、移住の促進については若年層の地域定着につなげる施策を検討したい。</p> |
|--|